



私たちの拡大教科書をもっと知ってもらいたい!

世話人 傍島 純子

29年度の拡大教材製作依頼状況はいかがでしょうか?昨年より減少の声も聞こえてきます……。昨年9月に文科省を訪問したとき、標準拡大教科書を使う児童、生徒の数が増えているということでした。この意味はいろいろ考えられます。今までボランティア作製の拡大教科書を使っていたお子さんたちも、標準拡大教科書使用に移行しているのでしょうか。また、弱視の度合いの低い子どもたちも、手軽に拡大教科書を手にするができるようになったのでしょうか。ほとんどすべての小中学校教科書の標準拡大教科書が出版されるようになり、私たちが長い間望んできた、ボランティアにも利用者にも喜ばしい時代になりました。でも、まだまだ標準拡大教科書では見えない児童・生徒がいるのも事実です。学校で、標準拡大教科書を与えられても、見えづらくて我慢しているお子さんはいないのでしょうか?何とかそのようなお子さんたちに、私たちの拡大教科書があるよとお知らせするには何をすればいいのかいつも考えてしまいます。従来よりボランティアの作製する教科書はプライベートサービスが基本で、私たちは常にお子さんにあった見やすい、工夫を凝らした拡大教科書を作ってきました。でもこのような教科書をご存じの保護者、学校の先生、教育委員会の方は残念ながらとても少なく、その知名度の低さにいつも悔しい思いをします。世話人会では今年度、学校の弱視教育の状況を知ろうと、いろいろなところに積極的に出かけました。見本をお見せすれば先生たちは一様に驚かれ、標準拡大教科書にない良さを認めてくださいます。それでも、なかなか依頼につながらないもどかしさもありますが、このようなPRのための地道な努力も必要かと思えます。神奈川のグループからのメッセージです。

● 会員の皆さんへ

● 出版社発行の教科用特定図書では見えにくい児童生徒の為に、ボランティア作製の拡大教科書を現場の多くの先生方に、知って見て頂くために活動拠点に近い教育委員会を訪ねてみませんか? お訪ねする前には必ず前もって連絡し、お会いできる日時や何のために訪問するかなどお知らせすることが大事だと思います。現場の先生や教育委員会の方の中でも、拡大教科書利用者一人ひとりの見え方に合わせて作製していることをまだまだご存知ない様に思われます。見え方に合った教科書を求めている児童生徒の為にボランティアとして、第一歩を踏み出してみませんか?

● 教育委員会のどこに連絡するの? 担当部署は特定できませんが、特別教育視援教育課、学校教育課、就学係、学務課など

● どんなものを持って行けば? グループのプロフィール、必要のなくなった拡大教科書などを利用者からお借りするか、もしくは一部抜粋のものなど

● 何月頃がいい? 特別支援級の教科書締め切りが7月末。出来ればその前のほうが良いので5・6月ごろに何うと次年度の申込にまでに時間がありますので良いとでしょう。

2016 年度勉強会 『さらに良い製本をめざすために』

日時：11月13日（日曜日）午後1時～3時

場所：東京都障害者福祉会館 B1 B2

講師：四街道写本の会の皆さん 7名

出席：16グループ 65名

内容：A3にレイアウト、プリントアウトの後A4に紙折り、くるみ製本、完全フラット開きの製本ワークショップ
道具、材料：紙折り器、製本台、木工ボンド、寒冷紗、目打ちたたき棒、ピットのり、竹べら、見返し用紙、他（道具のほとんどは自作品）



2016 年度勉強会に参加しました

豊島区立中央図書館ひかり文庫拡大写本グループ

四街道拡大写本の会の方々の熱心なご指導の下、製本作業のワークショップを体験しました。今後の活動への良い刺激になりました。

【感想】

○A4単票で製作しています。見開きA3に印刷すると余白の設定が難しいと思いました。

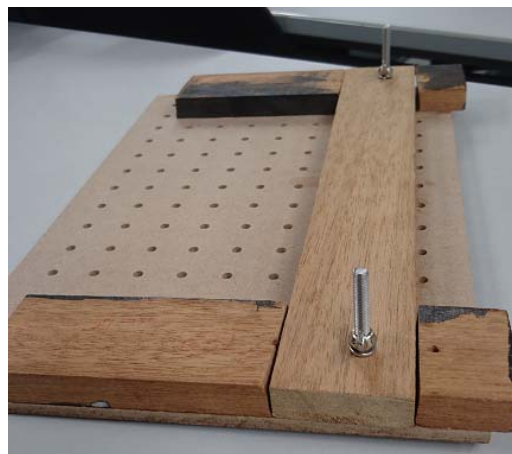
○全開き製本は、片面印刷を糊付けしていくという手間と出来上がりの厚さを考えるとなかなか困難な課題でした。勉強会に参加して各製作団体の工夫を拝見してこれから挑戦します。

○すばらしい完全に開く製本！ これからの拡大教科書作りには是非採用したいと思いました。

○作ってみて、ノリの付け方の感覚が難しい。数をこなすより仕方ないです。

○より良い製本を目指して創意工夫されているのに刺激されました。がんばろう！

○手書き時代はB4二つ折り、小口に糊付けの製本でした。パソコンで教科書を製作するようになってからは、機械製本で完全に開かない製本をしていました。勉強会終了後、早速、資材を調達して、試作製本機？をつくってみました。本番はこれからですが・・・。



※参加できなかった方で製本資料を希望される方は世話人会に申し出てください。

※拡大教科書につける製作者を記した奥付の多種多様な見本を持ち寄りました。

「きれいな製本をするためのワンポイントアドバイス」

四街道写本の会

1. 紙折りは、正確に折る（用紙は、Y目が良い）
2. 折り目を押さえておく（重しを乗せておく）
3. 背固め、のりづけは丁寧
4. のり付け後、のりが乾くまでページを開かない。

富士ゼロックス社 講習会に参加して

世話人 越島 陸雄

日時：11月11日（金）14:00～

会場：宮城県仙台市青葉区五橋1丁目1-23

場所：富士ゼロックス宮城㈱ セミナールーム

2016年8月の横浜で開催につづき東北仙台で開催されました。

- ① 拡大教科書等の普及促進について 文部科学省
- ② 高等学校等の教科書デジタルデータの提供について 富士ゼロックス社
- ③ 盲学校高等部に ICT を活用した授業における教科書デジタルデータの活用事例紹介
慶応義塾大学 中野教授
- ④ iPad を使った授業実践を通して 青森県立盲学校 小柴先生
- ⑤ ICT の活用 宮城県立盲学校 伊藤先生

デジタル教科書を使った視覚障害児の授業風景を紹介していただきました。

紙の教科書に変わる教材となる日は近いのか、まだまだなのか。拡大教科書製作ボランティアとしては気になります。

今回70名が参加し、中野先生が用意してくださったiPadでUDブラウザを使ってみました。教科書と違う機能がいっぱいあります。参加の皆さんは、学校関係、教育委員会の方たちがほとんどでボランティアグループは少なく残念でした。郡山かわずの会の皆さんにはお会いしました。ボランティアグループが作成した拡大本を展示、説明をしましたが、知らない人がほとんどで、もっとアピールし、必要としている弱視児童生徒に渡るよう努力をしましょう。

東京都弱視教育研究会に伺いました

世話人 原 真紀

平成28年12月5日に東京都内で弱視教育に携わっておられる先生方の研究会へ世話人5名が講師として伺いました。この日の会場は飯田橋駅近くの東京都立文京盲学校で、20名程度の先生方が参加されての研究会です。「一人ひとりの見え方に合った拡大教材の作製について(拡大教科書)」という内容で、まず簡単なボランティア作製拡大教科書の歴史、利点（個々の利用者の希望が作製状態に反映できる等）副教材も作製できることなどをお話した後、例として世話人がそれぞれも持ち寄った、利用者の要望を取り入れて作ったサンプルを見せながら説明をしました。その後、自由にサンプルを手にとって見ながらの質疑応答時間にはそれぞれの先生の疑問や要望を直接各世話人とやりとりしたり、拡大教科書を実際に手に取ってみると利用者が使いやすい様にたくさんの工夫がされていることに驚かれています。

この日の様子は、研究会の会報誌にも原稿として掲載され、参加されなかった先生方にもボランティア作製の拡大教科書について紹介されました。

参加した感想として、まだボランティア作製の拡大教科書については先生方にも知られていないように思われ、今回のような機会があれば積極的に参加し紹介していきたいと思いました。



筑波大学付属視覚特別支援学校における拡大ボランティア活動のお話

世話人 佐藤 邦隆

首記の学校で12月9日に拡大教材製作ボランティア活動のお話をしました。高校2年生を対象にした総合的な学習の時間で、テーマは「情報保障とボランティア」でした。生徒は16名で、半分は点字使用、半分は弱視という構成です。点訳と拡大教材製作の両方のボランティアがそれぞれ1時間の持ち時間で話しました。弱視の生徒が点訳の話、逆に全盲の生徒が拡大の話を書いて、同じ視覚障害者としてそれぞれの情報保障に携わっている両方のボランティアのことを知って社会に出ていくのがよいということでした。

私からは、そもそも拡大写本とは何か、どのように制作しているか、全国拡大協はどういうところか、依頼するにはどうしたらいいのか、など基礎的で全般的なお話をした上、拡大ボランティアの特徴は「一人ひとりの見え方に応じた教材にすること」とであると強調しました。

後日、生徒全員から感想のメッセージが届きましたが、以下に一例を紹介します。

—強く感じたのは、皆さまが大変に強い信念で私たち視覚障害者に支援の手を差し伸べてくださること、また、本を拡大する時にされている工夫についてお聞きできたので印象的でした。

—私は、墨字を使っていて、途中から点字切り替えをしました。そのような経験を思い出しながら、今回のお話を聞いて、拡大教科書は、それぞれの生徒に合わせた対応ができるのだなと感心しました。しかし、その配慮の裏には、様々な方々の努力があることに気づきました。

等、それぞれの生徒たちに新しい刺激になったように感じました。

現在のグループ数 54 グループ (2017年3月末現在)


※会員登録変更の届出のお願い


2019年度、新しい体制で活動を始められるグループなど、登録内容に変更が出た場合は同封の届出用紙に記入の上、郵送（またはメール添付）ください。


2019年度代表者会議のお知らせ

2019年度は文書にて行います。5月にはお手元に資料と返信はがきを送りますのでよろしくお願いいたします。

拡大 now & 編集後記

 2017年度勉強会は7月初めに予定しています。詳細は後日お知らせします。著作権法が改正される見通しです。

 2/22(水)に「テキストデータに関する共有と検討」についての打合せ会に参加しました。詳細は次号で

 今後の世話人会予定
4/25, 5/24, 6/28, 7/26 13:30~
東京都障害者福祉会館 13:30~

2016年秋緑綬褒章を授章しました

柏市拡大写本サークル

私たちのサークルは昨年秋の叙勲で緑綬褒章をいただきました。サークル立ち上げから今年で40年になります。主要新聞6社の千葉版で取材を受け、11月2日に記事が載りました。授章後に市長表敬訪問もし、拡大教科書をPRしました。これからも、利用者の皆さんに喜んでいただける拡大写本をしていきたいと思っております。